



草見露

第81号 令和8年（2026年）

初 御 祓
厄 除 神 事
夏 越 祭

三 毬 杖 神 事
春 季 大 祭

令和8年度年象意

かく こ てい しん
革 故 鼎 新 の 年

暑中のご挨拶

浪越進照

親神尊を慕う皆様、仁尾の鎮宮より

謹んで暑中のお見舞いを申し上げます

「古い制度・価値観・やり方を思い切つて改め、新しい秩序や仕組みを打ち立てる大きな流れが生じる年」という年象意【革故鼎新】を持つ令和八年も、すでに半年が過ぎました。

この半年を振り返ると、中東情勢の不安定化に端を発する国際秩序の揺らぎをはじめ、これまでの制度や価値観だけでは対応しきれない出来事を、私たちは数多く目の当たりにしてきました。

その意味では、今年の【革故】は、人間が自らの意志で古いものを改めていくというより、人間の意志を超えた大きな流れの中で、古い制度や価値観の見直しを迫られているものと言えるのかも知れません。

では、新しい仕組みや秩序を打ち立てる【鼎新】はどうでしょうか。こちらまた、私たちが積極的に新しいものを築いているとい

うより、思いがけず起こる【革故】に対応するため、やむを得ず迫られているように思われます。

本来であれば、人間の意志によつて古い制度・価値観・やり方を改め、新しい仕組みや秩序を打ち立てるはずの【革故鼎新】が、今年はずいぶん、人間の意志とは関係なく、私たちに変化と対応を迫っているのです。

では、親神尊の御力を日々授かっている私たちは、人間の意志ではどうにもならない領域で起きている年象意【革故鼎新】に、どのように向き合えばよいのでしょうか。

その答えとなるのが、「忘我委身（ぼうが いしん）」と呼ばれる親神尊との接し方です。忘我委身とは、「我を忘れて、すなわち願望を手放して、親神尊に身を委ねる」という意味です。願望を抱きつつ、すべての結果を親神尊に委

ねる「南無親神尊」と通じるところがありますが、とりわけ「忘我」、つまり自分の願望をできるかぎり手放すことに重きが置かれます。

具体的に言えば、南無親神尊において許されている「願望の部分」を少しずつ減らし、そのぶん結果を親神尊に委ねる「委身の部分」をさらに深めていくことが求められているのです。今年の【革故鼎新】が示しているのは、まさにそのような親神尊との向き合い方なのではないでしょうか。

願望を減らすと聞けば、不安を覚える方もおられるかも知れませんが。しかし、日々の奉拝五行を通じて六心の精進に努めている親神尊を慕う我々は、自らの願望さえも、親神尊の御導きの中にあることを忘れてはなりません。そのことを深く受け止めたうえで、不規則に変化する状況に惑わされることなく、残り半年も親神尊と共に、確かな足取りで前へ向かつて歩んでゆきましょう。

無意無恩頼無創無生（進照）

初御祓

「参加する人は全員マスク着用」を義務付けられ、令和八年の「初御祓」も前年同様、午前一時に進照先生と前田民雄総代さんにより始まりました。

進照先生は、令和八年の年象意を【革故鼎新の年】と貼り紙で発表されましたが、初説話はなさいませんでした。前田総代さんによる大幣祓は行われ、御神楽はなく、稲荷祝詞の奏上は行われ、「稲荷初御祓」の奏上は参加者全員が声を揃えて行いました。

初御祓の奏上後は、充実感を味わいつつ、それぞれに家路を急ぎました。

（M・A）





三毬杖神事

令和八年一月十一日（日）午前十時より、神社境内駐車場にて、三毬杖（さぎちよう）神事が厳かに執り行われた。

当日は寒波が到来して強風が吹き荒れ、時おり粉雪が舞う生憎の天気であったが、信者各位の家庭から持ち込まれた正月用品や、昨年神棚に祀られていた破魔矢・縁起熊手、そして各種守札が焚壇の神火で清められ、焚壇より立ち昇る浄煙とともに、高き所へお帰りになる歳徳神に滞りなく託された。

（進照）

厄除神事

寒さが一段と厳しかった一月二十五日（日）午前十時から、厄除神事（前厄・本厄・後厄）が執り行われました。

参加者は控室で進照先生から稲縄奉奠の作法を教わった後、法螺の音を合図に、凍てつく寒さの中を藁草履姿で本堂前へと向かい、年齢の数だけ撒銭を行い、本堂を施錠して神事が粛々と進められました。進照先生は親神尊に礼の限りを尽くして宣詞を奏上され、神威や神刀を用いて厄を祓われ、蘊奥の唱言で神事を締めくくられました。また、当日参加できなかった方々の神札にも、厄除けの呪文を唱えておられました。

（M・A）



春季大祭

令和八年二月十五日（日）、親神尊の鎮宮にて、本年度の多幸を祈願する令和八年度七宝稲荷春季大祭が、厳かに執り行われた。

前年の秋季大祭で見送られた神輿御遊行も今大祭から再開され、コロナ禍以降初となる神輿御遊行は、長年にわたり七宝稲荷の大祭にご尽力くださった故・浪越栗子様に深い敬意と感謝を捧げ、浪越栗子様が所有しておられた畑へ親神尊をお連れする、異例ながらもことに意義深い神輿御遊行となった。

（進照）



夏越祭

台風七号が接近し、天候が危ぶまれた六月二十七日(土)、有志各位が早朝より観音寺市で茅刈りをしてくださった茅を用いて、同日午後から本堂で茅輪奉製作業が行われた。

翌六月二十八日(日)、親神尊の鎮宮に茅輪が設営され、午前十時より大祓夏越茅輪潜りの神事が執り行われた。親神尊を慕う信者たちが茅輪を潜る際に唱える「蘇民将来(そみんしょうらい)」の声が響き渡る境内は限りなく厳かで、茅輪の緑をより一層鮮やかなものに際立たせていた。
(進照)



お知らせ

秋季大祭

日時 8月23日(日) 秋季大祭案内状宛名書き
9月13日(日) 秋季大掃除奉賛
9月19日(土) 秋季大祭(宵祭)
9月20日(日) 秋季大祭(本祭)
午前10時御膳上げ
9月21日(月) 祭収め

上の日取りで秋季大祭が執り行われます。皆様お誘い合わせのうえ、ご参拝くださいますようお願い申し上げます。

大注連縄作り

日時 12月13日(日)
午前8時より

場所 本堂

大注連縄を含む各種注連縄を作り、信者有志の皆さんが参加して下さいようお願い申し上げます。

納め命日(悔い事祓)

日時 12月18日(金) 午後8時より

場所 本堂

納め命日に参加される方は、1年間の反省事をしたためた封書を封印し、本堂へご持参下さい。

初御祓

日時 令和9年1月1日(金) 午前1時より

場所 本堂

令和9年最初の御祓奏上が本堂で行われます。またその席上で、令和9年の年象意(どんな年になるか)が発表されます。

次号のご案内

次号「露見草82号」は令和9年1月1日(金)に発行され、秋季大祭～悔い事祓の行事が掲載されます。また、[令和9年の年象意][令和9年度七宝稲荷年中行事][令和9年七宝稲荷暦吉日一覧表]も同号で発表されます。

七宝稲荷のブログ



七宝稲荷のブログは、パソコンやスマホを使って閲覧していただけます。
<https://sippo-inari.com/>

七宝稲荷宛てメール



七宝稲荷宛てのメールアドレスは、以下の通りです。
sinsyo@sippo-inari.com